

令和4年度 たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワーク事業報告

名 称:	サービス管理責任者ワーキング
目 的:	「質の高い個別支援計画を利用者に届けるために」 1. サービス管理責任者がスキルアップできる仕組みを作る 2. サービス管理責任者同士が情報を共有できる場を作る
メンバー:	メンバー 仲津(ワークスポット)、呉(リタリコ)、福島(フォルツァ)、武田(ディーキャリア)、安田(JJたかつきランチ)、大谷(カラフル高槻)、森川、水谷(就ポツ)、下口(はな)、
実 績:	<p>●ミーティング 新型コロナ感染拡大のためZOOMで開催</p> <p>5/17 今年度の計画作成</p> <p>7/19 障がい特性と就労移行</p> <p>9/20 人材育成について</p> <p>11/15 良い職場と事業所理念をどのように浸透させているか</p> <p>1/17 スタッフにとって働きやすい環境とは</p> <p>3/14 各事業所の入口調査について</p> <p>●高槻・島本のほぼ全ての就労移行とカラフル高槻が参加し、以下の運営方法でネットワークを維持・存続している。</p> <p>・奇数月の第3火曜日 ZOOMによる定例開催が行えている、令和5年から対面でのワーキングを実施予定。</p> <p>・司会と書記は持ち回りとして全員でワーキングを運営(リーダーは決めず)</p> <p>・その都度必要なテーマでの情報共有ができています。</p> <p>●コロナ禍の状況で、ご利用者や社会情勢が変わりつつあり、各自悩んでいることの共有はできているように思われる。</p> <p>●定着支援の集まりを、サビ管ワーキングのプロジェクトとして実施</p> <p>令和3年11月から「事業所の垣根を越えて地域の定着支援を考える」という目的の元、3ヶ月に一度開催。困難ケースの共有と事業所間の連携を強化。令和4年度は全て対面実施。2月にはハローワークの精神・発達トータルサポーターと、大阪市の就ポツスタッフも参加。ハローワークとの連携や、他圏域の連携の仕方なども学ぶことができた。</p>
計 画:	<p>課題</p> <p>① 多忙な中での参加になるので、出席が難しい事業所が増えている。日時の変更などをしたほうが良いのか。</p> <p>② サビ管が異動になった事業所が数多くあるので、運営を維持していくために、サビ管のためのワーキングにする工夫がいるように思われる。</p> <p>③ 困難ケースにもより良い支援ができるように、高槻市にある就労移行事業のボトムアップになるような研修の情報共有・企画立案を検討する。</p> <p>「今年度の計画」</p> <p>・上記3点を踏まえ、サビ管にとってどのようなスキルを高めたいのか、他事業所と何を連携していきたいのかを話題にしていきたい。</p>